



■ 北海道出身 法学部 3年

社会の要請に応えて
確たる知見を提供できるような、
時代に合致した憲法学者像を
模索していきたいです。

Q 維持会奨学生として思うことは？

維持会の皆様のお陰で学生生活を送れていると思うと、大変に身が引き締まる思いがします。ご支援に応えられますよう、日々学業に精励して、有為な人材となれますよう努力しております。

Q 一番興味のある授業は？

法学部では珍しい大学院併設科目の「憲法演習」です。参議院法制局で立法事務の第一線に立って活躍されている先生が担当されており、春学期は政治にまつわる「参加」をテーマに、受講者も積極的に意見を述べながら密度の濃い講義が展開されています。毎回の授業で、先生はもちろん院生の方の発言などからもとても刺激を受けております。

Q 課外活動で力を入れていることは？

塾内最大の法律系学術サークルにおいて、行政法を週に1回、1時間教えるという勉強会を立ち上げ、一年間担当しておりました。先日、自分の後を引き継いだ後輩が担当する勉強会に顔を出しましたが、感慨もひとしおでした。

Q 慶應義塾の良いところは？

維持会奨学金が示しているように、OB・在學生を問わず一つの社中に属する者として一致団結しているところだと思います。先日も、昨年度まで履修していた「法学演習」のクラス会がありましたが、半分を優に超える受講者が参加し、担当されていた弁護士の先生もとても感激されておりました。このように、単に個々の学問的・人間的なレベルが優れているだけでなく、一つのチームとしてお互いに手を携えていけるのが義塾の最大の魅力ではないかと思えます。

Q 今後、学生生活でチャレンジしたいことは？

法学部には、法律・政治両学科のゼミナール委員会が発行している学生論文集があります。卒論を載せるという先輩方はかなりいらっしゃいますが、3年のうちから独自で論文を執筆して投稿する学生はかなり少ないです。私は研究者を志望しているということもあり、まずは今年に掲載していただくことを目指して夏休み返上で図書館に籠ろうと思っております。

◎ 卒業後の進路、将来の夢は？

大学院法学研究科に進学し、憲法学者になることです。現在、憲法を取り巻く環境は急激に変化していますが、社会の要請に応えて確たる知見を提供できるような、時代に合致した憲法学者像を模索していきたいと考えております。